

開館45周年記念

テルマエ展

お風呂でつながる古代ローマと日本

2023年9月9日(土)～11月5日(日)



《恥じらいのヴィーナス（ウェヌス・ブディカ）》1世紀
ナポリ国立考古学博物館蔵

* ナポリ国立考古学博物館蔵の作品
画像はすべて下記クレジット
Photo©Luciano and Marco Pedicini

みどころ・担当者コメント

- ◆古代ローマと日本入浴文化について、さまざまな作品、資料、考古遺物、模型等を展示し紹介します。
- ◆漫画『テルマエ・ロマエ』の主人公ルシウスが案内人としてパネル等に登場します。
- ◆ヤマザキマリ氏のトークショー等、関連イベントが盛り沢山！

【展覧会概要】

人類史上に輝く繁栄を誇った古代ローマ。なかでも日本人が深い関心をよせるものの一つがテルマエ（公共浴場）であり、ヤマザキマリ氏による漫画『テルマエ・ロマエ』はテルマエへの親近感を一層高めました。本展では、絵画・彫刻・考古遺物といった100件以上の作品や映像、模型などの展示品により、テルマエを愛した古代ローマの人々の生活を身近に感じていただくことができるでしょう。また、『テルマエ・ロマエ』の主人公ルシウスが案内人となり、古代ローマのテルマエとともに、日本の入浴文化も紹介します。ルシウスが浴場をとおして日本とローマを往復したように、それぞれの入浴文化を体感することのできる機会となるでしょう。

【展示構成】

- 序章 テルマエ／古代都市ローマと公共浴場
- 第1章 古代ローマ都市のくらし
 - 1-1 庶民の日常
 - 1-2 娯楽
 - 1-3 饗宴
- 第2章 古代ローマの浴場
 - 2-1 アスリートと水浴
 - 2-2 医療と健康
 - 2-3 女性たちの装い
 - 2-4 テルマエ建築と水道技術
- 第3章 テルマエと美術
- 第4章 日本の入浴文化



©ヤマザキマリ

【イベント】

- ◆ヤマザキマリ氏×青柳正規館長トークショー
9月9日（土）

- ◆講演会1
講師／芳賀京子氏（東京大学大学院教授）
9月23日（土・祝）

- ◆講演会2
講師／青柳正規（山梨県立美術館館長）
10月28日（土）

ほか多数のイベントを開催

序章 テルマエ／古代都市ローマと公共浴場

テルマエとは「熱い」という意味のギリシア語「テルモス」に由来し、狭義には皇帝らによって建設された大規模公共浴場を、広義には古代ローマの版図内の公共浴場全体を指します。4世紀に記された2種類の『ローマ市総覧』によれば、当時ローマ市内には大規模な公共浴場は11を数え、小規模なものにいたっては856～951軒にのぼっていたといえます。

ローマ市内のテルマエで今も地上に遺構がよく残っているのは、アッピア街道沿いに217年に建設された有名なカラカラ浴場と、ローマ市で最大のディオクレティアヌス浴場（302年頃）です。

しかし大規模なテルマエの運営には、水道の管理・維持に加え、大量の燃料と奴隷を必要としました。温泉地にしても、たとえ温泉の利用は続いたとしても浴場施設が維持されることはなかったのです。そのため古代ローマの風呂文化は、中世には消え去ってしまいました。



《カラカラ帝胸像》212～217年
ナポリ国立考古学博物館蔵

第1章 古代ローマ都市のくらし

帝政初期には、ごく一部の特権階級と、増加する「大衆」の格差はかつてないほどに広がりました。下層民が住むのはインストラと呼ばれる高層の集合住宅で、住空間は極めて狭く、水道もなければ台所や風呂の設備もありませんでした。

皇帝たちは大衆の不満を解消すべく、食糧の施与や見せ物など娯楽の提供という施策をおこないました。1世紀末～2世紀初頭の風刺詩人ユウェナリスは、これを「パンとサーカス」と呼んで皮肉っています。テルマエも、大衆からの人気を得るのに大いに役立ちました。何人もの皇帝が、ローマ市に巨大なテルマエを建設しました。庶民たちのくらしは特別な日の見せ物と、毎日の仕事の後のテルマエによって彩られていたのです。

1-1. 庶民の日常

都市に住む庶民の家には、水道もなければ台所もありませんでした。調理するといっても、火鉢で温めるくらいだったでしょう。朝食はパンやチーズやドライフルーツなどで簡単に済ませ、仕事に向かいました。



《炭化したパン（レプリカ）》
79年 ナポリ国立考古学博物館蔵



《アウグストゥス帝の1/2アウレウス金貨》前2～後4年
平山郁夫シルクロード美術館蔵

1-2. 娯楽

古代ローマでは誰もが楽しめる娯楽として、戦車競走、剣闘士試合、演劇などの見せ物が発達しました。本来は祝祭や葬祭の一環として催されたものでしたが、時代が下るにつれ大衆の支持を得るといった政治的な目的が比重を増し、開催頻度も増していきました。



《剣闘士小像》
ナポリ国立考古学博物館蔵

1-3. 饗宴

客を招いて饗宴を催すのは、家に台所や饗宴用の部屋があり料理や給仕をする奴隷たちがいる、裕福な者にのみ可能な贅沢でした。饗宴の間にはコの字形に臥台が配され、そこに3～9人ほどが中央に頭を向けて寝そべり、中央に小卓が置かれました。そしてランプの灯のもと、奴隷たちの給仕で、手掴みで前菜、主菜、デザートと続くコース料理を楽しみました。



《ヘタイラ(遊女)のいる饗宴》1世紀
ナポリ国立考古学博物館蔵



《ミルフィオリ(千花文)皿》
前1～後1世紀
平山郁夫シルクロード美術館蔵

第2章 古代ローマの浴場

公共の場にある浴場は、ローマ人の発明ではありません。そのルーツのひとつは若者たちが運動後に身体を洗うための水浴施設、もうひとつは医療行為として神域に設けられた入浴施設で、いずれも古代ギリシアに発しています。しかしそれを大衆の娯楽のために、驚くほどの規模へと発展させたのはローマ人でした。

ローマ人にとって、テルマエは単に体を洗う場所というだけではなく、身体を動かし、汗を流し、多くの人と交流して、心身の健康を保つための場所でした。入浴に直接関係した種々の浴室のほかに、運動場やいくつもの部屋が付随していたのは、テルマエの複合娯楽施設としての性格を示しています。食事や音楽を楽しむ者もいれば、朗読会が催されるなど、文化サロンのような側面もありました。トラヤヌス浴場やカラカラ浴場には、図書館までもが併設されていたことが知られています。

2-1. アスリートと水浴

テルマエのルーツのひとつは、古代ギリシアのギュムナシウム（運動施設）におけるアスリートの水浴でした。ギリシアでは若者たちは肌に油を塗り、全裸で運動したため、運動後にはストリギリス（垢搔き）で汚れを落とし、水で身体を洗う必要がありました。ローマ世界の公共浴場にしばしば運動場が併設されているのは、こうしたギリシアの伝統を引いたものでした。



《ストリギリス》
前3～前1世紀
ポーラ文化研究所蔵



《銅製把手付ガラス壺》
3～4世紀
MIHO MUSEUM蔵

2-2. 医療と健康

入浴は、健康や医療とも直結しています。医神アスクレピオスの信仰はギリシアで紀元前5世紀に広まりましたが、その神域は必ず近くに清らかな湧水があるところにつくられ、医療行為の一環として入浴を行うところもありました。イスキア島ニトローディの温泉では、古くから泉のニンフたちがアポロとともに祀られています。アポロはアスクレピオスの父であり、疫病を祓う神でもありました。



《アポロ・ピュティウス坐像》1～2世紀
ナポリ国立考古学博物館蔵



《アポロとニンフへの奉納浮彫》2世紀
ナポリ国立考古学博物館蔵

2-3. 女性たちの装い

ギリシャでは女性の入浴の場は自宅に限られていたが、ローマでは女性もテルマエに通うことができました。ローマ人女性の装いはギリシャの女性たちに似ていました。化粧は広く普及しており、裕福な家の女性は、高価な装身具を身につけました。指輪は男性もつけたことが知られています。



《着衣女性像》
前1～後2世紀
個人蔵



《金製指輪》1世紀
国立西洋美術館蔵

2-4. テルマエ建築と水道技術

大規模なテルマエをつくるには、用地と水道が必要でした。当初はサウナ風呂のみでしたが、紀元前19年にウィルゴ水道が敷設されると、水や湯をふんだんに使用する正真正銘のテルマエとなりました。



《ライオン頭部形の吐水口》1世紀
ナポリ国立考古学博物館蔵

第3章 テルマエと美術

ローマの大規模なテルマエには、数多くの大理石彫刻も飾られていました。皇帝や浴場の建設者の肖像のほかに、神々の像や古代ギリシアの有名作品のコピーが、壁面に設けられたニッチや円柱の間の台座の上に並んでいました。主題は適当に選ばれたわけではなく、浴場にふさわしいものが選択されました。



《恥じらいのヴィーナス（ウェヌス・プディカ）》1世紀
ナポリ国立考古学博物館蔵

第4章 日本の入浴文化

本章では、日本の入浴文化について取り上げます。日本の入浴は、おおまかに、天然の温泉と、人工的な施設で行うものとに分けられるでしょう。火山列島のため豊富に温泉の湧く日本では、古くから各地の温泉が重要な資源として地域の住民によって守られ利用されてきました。

人工的な入浴施設は、仏教の寺院内につくられ、汚れと穢れを清める場として広まっていきました。江戸時代には町の中に湯屋が整備され、お湯につかるという現代にいたる入浴のスタイルが定着しました。本章では、こうした日本の入浴に関する美術品や資料を紹介します。古代ローマに勝るとも劣らない関心をもって、この習慣を保ってきた日本の歴史の一端をみることができます。

また、山梨の温泉にゆかりの資料も展示し、地域の温泉の魅力を改めてご紹介します。



《上醍醐西谷湯屋 復元模型》
国立歴史民俗博物館蔵



三浦宏《湯屋模型》
1980年代 個人蔵



落合芳幾《時世粧年中行事之内 競細腰雪柳風呂》
1868年 神戸市立博物館蔵



土佐光起《武田信玄像》
江戸時代
山梨県立博物館蔵
※展示期間：9月9日(土)
～10月9日(月・祝)



《河浦湯屋造営下知状》
1561年
恵林寺蔵（信玄公宝物館保管・展示）
※展示期間：9月9日(土)～10月9日(月・祝)

関連イベント

※申し込み方法等の詳細につきましては当館ホームページをご覧ください。

◆ヤマザキマリ氏×青柳正規トークショー

講師／ヤマザキマリ氏（漫画家、エッセイスト）

青柳正規（山梨県立美術館館長）

日程／9月9日（土） 午後2時～3時30分

定員／500名

場所／山梨県立文学館講堂（美術館向かい）

※要申込（詳細が決まり次第、ホームページでご案内いたします）

◆講演会1

本展監修者であり東京大学大学院教授の芳賀京子氏に、古代ローマの暮らしの象徴・テルマエについてご講演いただきます。

講師／芳賀京子氏（東京大学大学院教授）

日時／9月23日（土・祝）午後2時～3時30分

定員／先着100名

場所／講堂

※申込不要、聴講無料

◆講演会2

古代ギリシャ、ローマ文化研究の第一人者である当館の青柳正規館長による講演です。

講師／青柳正規（山梨県立美術館館長）

日時／10月28日（土）午後2時～3時30分

定員／先着100名

場所／講堂

※申込不要、聴講無料

◆古代ローマのディナー体験会

古代ローマ時代の食事を現代の食材で再現したディナーを体験してみませんか。

講師による料理の解説付きです。（ワインの提供あり）

講師／遠藤雅司氏（音食紀行）

日時／10月8日（日） 午後5時30分～7時30分

定員／6組12名

対象／中学生以上

場所／美術館レストラン

費用／1組5,000円および特別展観覧チケットが必要です

※要申込

◆キッズ・プログラム「親と子のアートレクチャー」

大人と子どもがそれぞれに展覧会を鑑賞し、あとから感想を共有します。

日時／10月14日（土） 午前10時～11時、午後2時～3時

定員／各回20名

対象／小学生とその保護者

場所／ワークショップ室、特別展示室

※要申込、参加無料

関連イベント

◆アウトドアサウナ@芸術の森公園

風呂のルーツは、湯につかるかたちではなく蒸気で体を温める蒸し風呂でした。現代ではサウナに近い形態と言えるでしょう。山梨県が推進するアウトドアサウナを、風呂のルーツに思いをはせながら体験することができます。

提供／株式会社GATES

日時／10月15日（日） 午前10時～午後0時／午後1時～午後3時

定員／12名（テント1張りにつき3名）

対象／中学生以上（未成年者は保護者同伴）

場所／芸術の森公園

費用／参加無料ですが特別展観覧チケットが必要です

持ち物／バスタオル、Tシャツ、ハーフパンツ、サンダル、水分補給用の飲み物、着替

※要申込

※30秒程度の体験が可能な当日参加用テントも2張りございます。順番にご案内しますがお待ちいただくこともあります（申込、持ち物不要）。

◆イタリアのメルカート（市場）

イタリアの食品やハンドクラフトなどのミニ市場を開催します。

日時／10月21日（土） 午前10時～午後4時

場所／ミュージアム・コート（レストラン前広場）

※申込不要

◆スペシャル映画会「テルマエ・ロマエ」（2012年、108分）

日時／10月21日（土） 午後1時30分～

場所／講堂

定員／70名

※要申込

プレスツアー開催のご案内

担当学芸員がみどころなどをご説明いたします。

日時 2023年9月8日（金）13:00～13:45（受付12:30～）

※内覧は15:30まで

※14:00より、当館開館45周年記念式典および本展のオープニング・セレモニーをおこないます。14:20以降は、セレモニー参加者も内覧の時間となりますので、ご了承ください。

展覧会公式サイトはこちら
<https://thermae-ten.exhibit.jp/>



作品を多数出品いただいている山梨県内の平山郁夫シルクロード美術館でも古代ローマの作品が展示されます。詳しくはこちら
<https://www.silkroad-museum.jp/>



開催概要

- 名称：テルマエ展 お風呂でつながる古代ローマと日本
会場：山梨県立美術館 特別展示室
会期：2023年9月9日(土)～11月5日(日)
休館日：月曜日(9月18日、10月9日は開館)、9月19日(火)、10月10日(火)
開館時間：9:00～17:00 (入館は16:30まで)
主催：山梨県立美術館、テレビ山梨、朝日新聞社
後援：イタリア大使館、NHK甲府放送局、山梨日日新聞社・山梨放送、
テレビ朝日甲府支局、朝日新聞甲府総局、毎日新聞甲府支局、
読売新聞甲府支局、産経新聞甲府支局、共同通信社甲府支局、
時事通信社甲府支局、山梨新報社、日本ネットワークサービス、
エフエム富士、エフエム甲府
協力：ヤマザキマリ、山梨交通、甲府青年会議所

※展覧会、各イベントは延期または中止になる可能性があります。

ご来館前に当館HPを必ずご確認ください。

※入場制限をする場合があります。

観覧料

- 一般：1000円(840円)、大学生：500円(420円)
* ()内は20名以上の団体料金、県内宿泊者割引料金
* 高校生以下の児童・生徒は無料(高校生は生徒手帳持参)
* 県内65歳以上の方は無料(健康保険証等持参)
* 障害者手帳をご持参の方、およびその介護をされる方は無料

交通アクセス

- 中央自動車道甲府昭和インターチェンジより
 - ・料金所を昇仙峡・湯村方面へ出て200m先を左折、西条北交差点左折、アルプス通りを約2km直進、貢川交番前交差点を左折、国道52号を約1km左側。
(駐車場：乗用車345台、バス16台、障害者専用6台 いずれも無料)
- JR中央本線甲府駅より
 - ・甲府駅バスターミナル(南口)1番乗り場より
御勅使(みだい)・竜王駅経由敷島営業所・大草経由韮崎駅・貢川(くがわ)団地
各行きのバスで約15分。「山梨県立美術館」下車。
 - ・タクシーで約15分。

お問い合わせ先

- 〒400-0065 山梨県甲府市貢川1-4-27 TEL：055-228-3322 FAX：055-228-3324
- 取材等の問合せ：山梨県立美術館 指定管理者 SPS・桔梗屋・KBS共同事業体
広報担当 輿石(コシイシ)・河野(コウノ) spsyamanashipr@sps.sgn.ne.jp
 - 展覧会内容に関する問合せ：山梨県立美術館学芸課 太田(オオタ)